

第75回北海道高等学校柔道大会 兼 第74回全国高等学校柔道大会北海道予選会 開 催 要 項

主 催 北海道高等学校体育連盟 北海道教育委員会 一般社団法人北海道柔道連盟
主 管 北海道高等学校体育連盟柔道専門部 北海道高等学校体育連盟空知支部
当 番 校 北海道滝川西高等学校 〒073-0044 北海道滝川市西町6丁目3番1号
TEL0125-24-7341 FAX0125-24-7342

1 期 日 令和7年6月22日(日)～6月25日(水) 4日間

6月22日(日) <会議等>	※今大会公式練習は設定しません	
専 門 委 員 会	15:10～ 15:30	大研修室
受付(プログラム等配布)	15:30～ 16:30	大研修室入口前
選 手 変 更 届 提 出	15:30～ 16:00	大研修室 ※オーダー用紙は事前に提出した高校は不要
団 体 オ ー ダ ー 提 出		
監 督 ・ 主 将 会 議	16:00～ 16:30	講堂(大研修室)
審 判 会 議	16:40～ 17:10	講堂(大研修室)

6月23日(月) <団体試合 男子・女子>		
開 場 ・ 受 付	9:00～	受付:ホワイエ ※前日受付済みの高校は不要
男 ・ 女 体 重 計 量	9:20～ 9:50	男子:メインアリーナ 女子:更衣室
開 会 式	10:10～ 10:25	メインアリーナ ※全員整列
団 体 試 合 (女 子)	10:35～ 12:35	メインアリーナ
団 体 試 合 (男 子)	13:25～ 17:00	メインアリーナ
男 女 団 体 表 彰	17:10～ 17:20	メインアリーナ

6月24日(火) <個人試合 女子～決勝 男子1,2回戦>		
開 場	9:00～	
顧 問 ・ 審 判 打 ち 合 わ せ	9:50～ 10:10	メインアリーナ
個 人 試 合 (女 子)	10:20～ 12:40	メインアリーナ
形 の 演 武	12:45～ 13:00	メインアリーナ
個 人 試 合 (男 子)	13:45～ 16:30	メインアリーナ

6月25日(水) <個人試合 男子>		
開 場	9:00～	
顧 問 ・ 審 判 打 ち 合 わ せ	9:45～ 9:55	メインアリーナ
個 人 試 合 (男 子)	10:00～ 15:15	メインアリーナ
男 女 個 人 表 彰	15:20～ 15:40	メインアリーナ
閉 会 式		

2 会 場 北海道立総合体育センター メインアリーナ
札幌市豊平区5条11丁目1番1号 TEL011-820-1703

3 競技規則

(1) 国際柔道連盟試合審判規定による。ならびに北海道高体連柔道専門部申し合わせ事項による。

(2) 「優勢勝ち」の判定基準

ア 団体試合は、「有効」または「僅差」(指導差2)以上とする。チームの内容が同等の場合は、代表選手を任意に選出して代表戦を行う。代表戦で得点差がない場合は、ゴールデンスコア方式の延長戦を行う。延長戦は「有効」以上の得点があった時点、または「指導」の数に差が出た時点で試合終了とする。

イ 個人試合は、「有効」または「僅差」(指導差2)以上とする。試合終了時に得点差がない場合は、ゴールデンスコア方式の延長戦を行う。延長戦は「有効」以上の得点があった時点、または「指導」の数に差が出た時点で試合終了とする。

(3) 試合時間

ア 団体試合は、男女ともすべて4分間とする。代表戦の延長戦(ゴールデンスコア)は時間制限を設けない。

イ 個人試合は、男女ともすべて4分間とする。但し、延長戦(ゴールデンスコア)は時間制限を設けない。

(4) 絞め技及び関節技においては、その効果が認められたときは、審判員の見込みによって「一本」の判定を下すことができる。

4 競技方法

(1) 団体試合

ア 男子は3校程度による予選リーグを行い、1・2位校による決勝トーナメントにより順位を決定する。

優勝、準優勝、3位(2校)とし、3・4位決定戦は行わない。

イ 女子はトーナメントにより順位を決定する。優勝校、準優勝、3位(2校)とし、3・4位戦は行わない。

ウ 試合の勝敗の決定は次による。

① 判定基準

選手対選手それぞれの試合の勝敗は「有効」または「僅差」以上とする。*「僅差」は指導差2とする。

② 「技の内容」と「指導」の重み

*【一本勝ち＝反則勝ち>技あり>有効>僅差】の順とする。

③ 団体試合のチーム対チームの勝敗の決定(このことは、すべての試合に適用する)

以下の項目に従って勝敗を決定する。

I 勝ち数の多いチームを勝ちとする。

II Iで同等の場合は「一本」による勝ちが多いチームを勝ちとする。*一本勝ちと反則勝ちは同等とする。

III IIで同等の場合は「技あり」による勝ちが多いチームを勝ちとする。

IV IIIで同等の場合は「有効」による勝ちが多いチームを勝ちとする。

V IVで同等の場合は代表戦を行う。*代表戦はその対戦に出場した選手の中から任意に選出して行う。

VI 代表戦で「指導」の累積により両者が同時に「反則負け」となった場合は、スコアをリセットして、ゴールデンスコア方式の延長戦を行い、勝敗を決する。

延長戦で「指導」の累積により両者が同時に「反則負け」となった場合は、スコアをリセットして、再度ゴールデンスコア方式の延長戦を行い、必ず勝敗を決する。

VII 予選リーグにおいて、リーグ内のチームの勝率勝ち点が同一の場合は、直接対戦した勝敗や試合内容(一本・技あり・有効・僅差)を精査して順位を決定する。試合内容は試合時間内を優先する。さらに同内容の場合は抽選を行う。

*代表戦の優勢勝ちの判定基準は「有効」または「僅差(指導差2)」以上とする。ただし勝敗が決しない場合は、延長戦(ゴールデンスコア)を時間無制限で行う。延長戦の判定基準、実施方法は個人試合に準ずる。

(2) 個人試合

ア トーナメント方式により順位を決定する。3・4位決定戦は行わない。

*「指導」の累積により両者が同時に「反則負け」となった場合は、スコアをリセットして、ゴールデンスコア方式の延長戦を行い、勝敗を決する。

延長戦で、「指導」の累積により両者が同時に「反則負け」となった場合は、スコアをリセットして、再度ゴールデンスコア方式の延長戦を行い、必ず勝敗を決する。このことは、すべての試合に適用する。

イ 男子個人は各階級の参加者数により、個人試合1日目に1回戦のみの階級もあり得る。(1日目にベスト32を決定する)

ウ 個人試合の階級は下記のとおりとする。

〔男子〕100kg超級・100kg級・90kg級・81kg級・73kg級・66kg級・60kg級

〔女子〕78kg超級・78kg級・70kg級・63kg級・57kg級・52kg級・48kg級

オ 計量は時間内に実施し、パスしない者は出場を認めない。

5 引率・監督

(1) 引率責任者は当該校の教員で、監督は学校長の認めた教職員とする。ただし、監督については種目の特殊性を考慮し、申出により別途協議する。なお引率責任者と監督が同一者の場合は教員とする。校長から引率を委嘱された「部活動指導員」(学校教育法施行規則78条に示された者)も可とする。

(2) 監督の役割

監督は、自身の選手が大会会場に入場してから退出するまでの間、選手の行動に責任を持たなければならない。

(3) 監督の行為・言動

ア 試合が止まっている間(「待て」から「始め」)のみ、選手に対し指示を与えることができる。

イ 次の行為を禁止する。

① 試合が進行している最中に指示を出すことや試合中に立ち上がること。

② 対戦相手や自身の選手を侮辱する言動。

(4) 罰則規定

ア 1回目は審判員が合議の上、口頭により「警告」を与える。

イ 2回目は審判員が合議をし、大会委員長または審判長に報告の上、大会委員長または審判長の責任のもとに、その試合が終わるまで監督席から退場させる。

※ 次の試合(対戦校)からは、監督席に座ることはできるが、その後も改善されない場合は、大会期間中を通して、監督席への着席を認めない。

6 参加資格

(1) 北海道高等学校体育連盟に加入している高等学校の生徒で全道大会の参加資格を得た者。

(北海道高等学校体育大会参加基準による。)

(2) 令和7年度、北海道柔道連盟を経て(公財)全日本柔道連盟の登録を完了した者。

(3) 高体連主催大会参加者災害補償制度に加入している者、または加入意思のある者。

(4) 平成18年4月2日以降に生まれた者。(令和7年4月2日現在で19歳未満の者。但し、出場は同一競技3回までとし、同一学年での出場は1回限りとする。)

(5) 在籍が6カ月未満の転学者は参加できない。但し、一家転住等やむを得ない場合は高体連支部長の許可があればこの限りではない。尚、外国人留学生もこれに準じることとする。

(6) 参加する選手はあらかじめ健康診断を受け、在学する学校長が支障ないと判断した者とする。

(7) 女子においては、試合経験があり、ある程度の力量を有する者。

(8) 脳しんとう対応として、選手およびその指導者は下記事項を遵守すること。

ア 大会1カ月以内に脳しんとうを受傷した者は、脳神経外科の診察を受け出場の許可を得ること。

イ 大会中、脳しんとうを受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする。

(なお、至急、専門医(脳神経外科)の精査を受けること。)

ウ 練習再開に際しては、脳神経外科の診断を受け、許可を得ること。

エ 当該選手の指導者は大会事務局および全柔連に対し、書面により事故報告書を提出すること。

(9) 高等専門学校・専修学校及び各種学校にあっては、学齢・修業年限ともに高等学校と一致していること。

また、連携校の生徒による混成は認めない。大会開催に要する経費については応分の負担をすること。

(応分の負担として、エントリー1名1,500円の参加料を納入する。)

7 チーム編成

(1) チーム編成においては、全日制課程・定時制課程・通信制課程の生徒による混成は認めない。

(2) 団体試合

ア 男子は、監督1名・マネージャー1名・選手5名・補欠1名の合計8名をもって編成する。但し、選手は3名から5名でもよい。なお、3名もしくは4名の場合は、後ろ詰め(先鋒・次鋒、もしくは先鋒を空ける)とする。

なお、試合開始後に負傷等で欠場者が出た場合も後ろ詰めとする。

イ 女子は、監督1名・マネージャー1名・選手3名・補欠1名の合計6名をもって編成する。但し、選手は2名でも良い。2名の場合は、大会要項 12 連絡事項(1)キの対応を行う。

(3) 個人試合

男・女ともに、監督1名・マネージャー1名・選手とする。出場選手は北海道高等学校体育大会参加基準による。

8 組合せ方法

(1) 組合せ抽選会 6月4日(水)9時より、北海道滝川西高等学校 会議室において行う。

組合せ決定後、当番校ホームページにて公開します。

(2) 団体試合

ア 男子～予選はリーグ戦とし、同一支部が対戦しないようにする。(参加校の多い支部はこの限りではない)

高校選手権北海道大会の上位4校の支部にシード権を与え、支部大会の結果でシード校を決定する。

シード校は原則4校とするが、支部大会の結果により5校以上になることもある。

決勝トーナメントは、シード校が入るリーグ1位校の位置はあらかじめ決定し、それ以外は抽選で決定する。

イ 女子～トーナメント方式とし、同一支部が早期に対戦しないようにする。シード校は支部大会の結果や過去の大会結果等から決定する。

(3) 個人試合

ア 男女とも各階級トーナメント方式とする。

イ 男子は各階級、支部2位までをシードする。ただし、札幌支部は3位までとする。

また、支部大会の出場人数が3名以下の場合は原則1位のみとする。(力量を確認し審議)

なお、シード選手の組合せは高校選手権や過去の大会の成績により決定する。

女子は各支部予選の順位や過去の大会成績によりシード選手を決定し組合せする。

ウ 一回戦は同一支部の選手が対戦しないようにする。ただし参加人数により組み合わせることもある。

9 参加申込

- (1) 方 法 北海道滝川西高等学校HPより全道高校柔道大会申込のページに入り「参加申込書」をダウンロードして、入力方法を確認し申込書を作成する。次のア、イの要領で送付する。
- ア 出場権があるものについて入力し、印刷後、公印を押印して、大会事務局へ郵送する。
- イ アで作成した申込データをメールに添付して大会事務局へ送付する。(ファイル名は学校名に変更)
- (2) 申込先〔郵送先〕073-0044 北海道滝川市西町6丁目3番1号 北海道滝川西高等学校

北海道高等学校柔道大会事務局 橋本 広樹

〔メール送付先〕 hashimoto@takanishi.ed.jp

TEL 0125-24-7341 FAX 0125-24-7342

- (3) 申込締切 5月28日(水) 必着。期日までに提出がない場合は出場を認めない。

10 参加料 選手1名(補欠も含む)につき1,500円を下記振込先へ締切期日までに振り込むこと。

- (1) 振込先 北門信用金庫 本店 店番号 001 普通 口座番号 0352159

北海道滝川西高等学校 代表 ^{ミツイ トモカズ} 三井智和

- (2) 締切 5月29日(木) ※ 振込依頼人名は北海道・高等学校を除いた学校名のみを記載して手続きをすること。

例) ○ サッポロコトニ × ホッカイトウサッポロコトニコウトウガッコウ

※ 振込完了を確認できるもの(コピー可)を参加申込時に同封すること。

11 表彰等

- (1) 表 彰 ア 団 体 全道大会上位4校と敢闘賞(ベスト8)を表彰する。

イ 個 人 各階級上位4名を表彰する。

- (2) 全国大会出場資格 ア 団 体 男女優勝校

イ 個 人 男女各階級優勝者

12 連絡事項

- (1) 団体試合のオーダー用紙提出と選手変更届の提出

ア 団体試合オーダー用紙及び選手変更届(参加申込後に変更が生じた場合)は、所定の様式(当該学校長の出場認知書)により、6月22日(日)15:30～16:00の間に大研修室受付へ提出する。用紙は封筒に入れること。なお、**オーダー用紙は大会参加申込時に同封してもよい。**

イ 提出されたオーダー用紙・選手変更届は、全てが揃い次第開封し、監督主将会議後に提出された用紙(原本)を大研修室(23日以降はアリーナ本部前の壁)に掲示する。

ウ 団体試合のオーダー用紙提出後は、配列の変更は認めない。

エ 参加申込後の選手変更は男女とも1名を限度とする(選手変更により新たに登録した選手は補欠に入れること)。但し、感染症や天災等による場合はこれを適用しない。

オ 男子団体試合で申込時に6名で登録し変更後も6名の場合、新しく登録した選手が補欠以外に配列された場合は、その選手は出場できない。なお変更された選手も出場はできない(5名での登録となる)

カ 男子団体試合で3,4名の申込みで、提出されたオーダーが後ろ詰めになっていない場合は、そのままのオーダーで後ろ詰めとする。

キ 女子団体試合2名エントリーの実施にともうなう対応

選手の配列について、負傷等で欠員が生じた場合、その位置は空位とする。ただし、両チームとも2名での対戦となり1名の対戦で勝敗を決する配列となった場合は、配列をそのままの順序で後ろに詰める(先鋒をあける)。また、2名同士の対戦後、勝ち上がった場合、次の試合の配列はエントリー通りの配列(欠員の場所を空位)とする。なお、試合開始後、負傷等で棄権し、出場選手が2名となる場合、棄権する選手は大会医師の診断を受けることを必要とする。

ク 競技開始後に選手変更の必要が生じた場合には、「選手変更用紙」に必要事項を記入し、本部記録係に2部提出する。変更の承認を得てから選手の変更を行うこと。

- (2) 参加者は全員ゼッケンをつけること(男子は白地に黒、女子は白地に赤)。女子の試合者は上衣の下に、白色の半袖Tシャツを着用すること。

- (3) 参加する選手は赤白の帯を用意すること。

- (4) 引率者、選手の上靴、スリッパ等は各自で持参すること。

- (5) 形の演武を2日目に行う。

- (6) 観客席などの控え場所の荷物等は各学校で整理整頓すること。また、貴重品は必ず各学校で管理すること。

- (7) ゴミは各自で持ち帰ること。

- (8) 支部大会結果報告書・審判推薦書の提出について

各支部専門委員は、「支部大会結果報告書」・「審判推薦書」を5月28日(水)までに専門部・大会事務局へメールにて送付すること。